



中央農業高校 校長室だより 6月号

－命はぐくむ学びの風景－

神奈川県立中央農業高等学校 校長 岩崎秀太

「実り多き6月 ～学校の学びが地域へ広がる一か月～」

中央農業高校にとって6月は、多くの行事が行われる月となりました。創立120周年記念式典、プロジェクト発表・意見発表校内大会、関東大会壮行会、ロータリークラブでの和太鼓演奏、牛乳の日イベントなど、それぞれの行事については、**校長室便り特集号や号外、ホームページの記事で詳しく紹介していますので、ぜひご覧ください。**今回は、それらとは別に、地域とのつながりや日頃の教育活動を感じていただける話題をご紹介します。

【地域へ広がる「中央農業ブランド」】

6月は校内だけでなく、地域へ飛び出して活動する機会が数多くありました。その一つが「小田急海老名駅構内「Chunoマルシェ」」です。生徒たちが育てた新鮮な野菜や草花、鶏卵、加工品などを販売し、多くのお客様に足を止めていただきました。販売では、生徒自ら商品の説明やおすすめの食べ方を紹介し、「また来ます」「高校生が頑張っていますね」という温かい言葉をたくさんいただきました。農業高校の販売会は単なる物販ではありません。生産から加工、販売までを自ら経験することで、「ものづくり」と「人とのつながり」を学ぶ貴重な授業でもあります。地域の皆様との会話の中から、生徒たちは学校では学べない多くのことを吸収しています。



【校内販売会も大盛況】

毎月開催している**校内生産物販売会**も、多くの地域の皆様にお越しいただいています。季節の野菜や花苗、豚肉、鶏卵、ジャム、焼き菓子、味噌など、本校で生産・加工した商品を販売しています。販売開始前から並んでくださる方も多く、地域の皆様に支えられていることを実感しています。

今年度も販売会は2月まで予定しています。ぜひ多くの皆様にご来校いただき、生徒たちの学びの成果をご覧いただければ幸いです。

【地域に育てられる学校】

中央農業高校の教育は、教室だけでは完結しません。地域の企業、農家、行政、関係団体、そして地域の皆様との交流を通して、生徒たちは社会性や責任感を身に付けています。「命をはぐくむ」という本校の教育理念は、植物や家畜だけではなく、人とのつながりを育てることでもあります。地域の皆様からいただく励ましの言葉が、生徒たちの自信となり、次の挑戦への原動力となっています。

6月は、本当に多くの行事が続きました。その一つ一つで、生徒たちが堂々と活躍する姿を見ることができ、校長として大変誇らしく感じています。7月はいよいよ中学生体験入学や農業クラブ県大会、野球部の夏の大会など、新たな挑戦が始まります。これからも、生徒たちの頑張る姿を校長室だよりやホームページで発信してまいりますので、ぜひご覧ください。

「命はぐくむ」の理念のもと、生徒一人ひとりの成長を支えてまいります。
神奈川県立中央農業高等学校